

カリヨン

CARILLON

日本赤十字東北看護大学・日本赤十字東北看護大学介護福祉短期大学部



～イベント・活動報告～

1年間を振り返って

P.02-13...

P.14-15... News Topics

P.16... CARILLON INFORMATION



2025年度 No.15



学報

○カリヨンは(フランス語: Carillon)
教会の塔などに吊り下げられる音程を異にする多数の鐘を組み合わせたもの。16世紀以来、特にフランドル地方(現在のベルギー・オランダ・フランス)で発達し、自動演奏装置を持つものもある。赤十字の理念より「人道・博愛・奉仕」を3つの鐘に投影した本学のシンボルとして、平成8年の短大開学時に設置された。これにちなんで本学学園祭も「カリヨンプレ」呼んでいる。

日本赤十字六看護大学学生交流会の様子 (P.09)

1年間を振り返って

大学名称の変更という新たな門出を迎えた今年。対面での豊かな交流が日常となり、イベントの数や規模も拡大。学外研修や学友会企画を通して、学生の弾けるような笑顔と活気が溢れ、次なる一歩への期待が高まる一年となりました。

■ 除幕式

4月1日

正面玄関に掲げられた名称看板の除幕式を開催。
大学の新たな門出を祝いました

2025年4月、日本赤十字東北看護大学および日本赤十字東北看護大学介護福祉短期大学部として、新たな一歩を踏み出しました。教職員が見守る中、正面玄関前で除幕式が執り行われ、本学は新名称とともに新たな歴史を歩み始めました。



幕が取り払われ、新たな大学名称が正面玄関に堂々とお披露目



沿革

- 1896 (明治29) 年 日本赤十字社秋田支部で救護看護婦養成を開始
- 1914 (大正3) 年 日本赤十字社秋田支部病院救護看護婦養成所として発足
- 1946 (昭和21) 年 秋田赤十字病院赤十字看護婦養成所と改称
- 1950 (昭和25) 年 秋田赤十字高等看護学院と改称
- 1976 (昭和51) 年 秋田赤十字看護専門学校と改称
- 1996 (平成8) 年 秋田赤十字看護専門学校を発展させ、学校法人日本赤十字学園の設置する看護高等教育機関として、日本赤十字秋田短期大学を開学
- 1998 (平成10) 年 秋田赤十字看護専門学校閉校
- 2009 (平成21) 年 日本赤十字秋田短期大学看護学科を改組転換し、日本赤十字秋田看護大学開学 (看護学部看護学科)
- 2011 (平成23) 年 日本赤十字秋田短期大学が、介護福祉学科の単科となる
日本赤十字秋田看護大学大学院 看護学研究科 看護学専攻修士課程開設
- 2013 (平成25) 年 日本赤十字秋田看護大学に認定看護師教育課程
(認知症看護認定看護師コース) 開講 (2019 (令和元) 年度末をもって閉講)
- 2016 (平成28) 年 日本赤十字秋田看護大学大学院 看護学研究科 共同看護学専攻博士課程開設
- 2018 (平成30) 年 日本赤十字秋田看護大学看護学部で養護教諭一種課程開設
- 2019 (平成31) 年 日本赤十字秋田看護大学大学院に高度実践看護師教育課程 (精神看護分野) 開講
- 2023 (令和5) 年 日本赤十字秋田看護大学大学院に高度実践看護師教育課程 (老年看護分野) 開講
- 2025 (令和7) 年 日本赤十字秋田看護大学を日本赤十字東北看護大学に名称変更
日本赤十字秋田短期大学を日本赤十字東北看護大学 介護福祉短期大学部に名称変更

令和8(2026)年に看護師養成30周年を迎えます。

令和6年度学位記授与式 | 3月14日

節目を迎えた学生たち、
学びの集大成を胸に新たな世界へ

あきた芸術劇場ミルハスにて学位記授与式を挙行了ました。保護者の方々が見守る中、看護学部107名、大学院修士課程10名、介護福祉学科12名の学生たちが卒業の日を迎えました。会場は温かな拍手に包まれ、それぞれの進路へと力強く歩み出す、未来への希望に満ちた門出となりました。



令和7年度入学式 | 4月2日

学びの門をくぐり、
未来へと歩み出す新入生たち

今年度は、看護学部106名、介護福祉学科6名、大学院修士課程4名・博士課程1名の新入生を迎え、本学体育館にて入学式を挙行了ました。原玲子学長は「人道とは何か」という問いに向き合い続けることの尊さを説き、新入生代表は命と向き合う覚悟と成長への決意を表明。学生たちはそれぞれの目標を胸に、新たな一步を踏み出しました。



在学生を代表して看護学部4年の横山雄大さんが歓迎の言葉を述べ、新入生に、今後の学生生活に向けたエールを送りました。



新入生交流会 | 4月4日

笑顔に包まれた交流会、
先輩学生が新入生の門出を彩る

先輩学生が企画した様々なレクリエーションが行われ、新入生は笑顔あふれる楽しい時間を過ごしました。学食体験ではキャンパスの雰囲気を感じながら、参加者同士の距離も縮まり、学生生活への期待が高まるひとときとなりました。



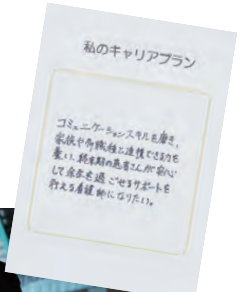
ジェスチャーゲームの様子 (答え合わせ)



学食体験の様子

私のキャリアプラン

4月24日



専門職としての責任を胸に、
未来への誓いを新たにする

「私のキャリアプラン」は、学内での学びを経て長期の臨地実習に臨む看護学部3年生と介護福祉学科2年生が参加する行事です。かつて「宣誓式」と呼ばれていたこの行事は、専門職としての責任を自覚し、自身の将来像を描いて目標を定める機会となります。看護や介護福祉を志す学生にとって、自らの成長を再確認し、次のステップへ進むための大切な節目となっています。



— [それぞれのビジョンを共有]

学生一人ひとりが自らのキャリアプランについて発表し、お互いの目標や将来の理想像を共有します。それぞれの思いや価値観に触れることで、自分自身の目標の理解と意欲をさらに深める貴重な機会となります。

[キャンドルサービス]

キャンドルの灯火を通して“なりたい自分”に向き合う時間です。静かな雰囲気の中で火を受け取り、自らのキャリアビジョンを思い描くことで、専門職としての責任や目標への意識を新たにします。



同日開催

赤十字・人道教育フォーラム

4月24日

災害・難民支援の現場から、
人道の本質に迫る

今年のテーマは「人道支援において守るべき基準」。CWS Japanの五十嵐豪氏を講師に迎えて実施され、高大連携協定校である聖霊学園高校の生徒さんも参加しました。災害・難民支援の現場で直面するジレンマや、善意だけでは解決できない支援の難しさ、そして現場の実情が語られ、参加者は「人として生きること」を支える支援の本質に深く向き合う時間を過ごしました。



4月16日

赤十字キッズタウン | 5月31日



体験を通して学ぶ赤十字 子どもたちの学びと成長の場

本学を会場に「赤十字キッズタウン」が開催されました。今回で11回目となるこのイベントは、幼稚園年中から小学生までの子どもたちが赤十字職員になりきり、災害救護や医師・看護師、献血業務、保育士などのお仕事を体験することで、赤十字の理念や活動を親子で学ぶ体験型プログラムです。会場には、秋田赤十字病院のドクターヘリ見学や救急法奉仕団による救命処置体験、点訳奉仕団による点字体験、災害救護車両の展示や炊き出し体験など、多彩なコーナーが設けられました。午前・午後の二部制で行われ、あわせて149名の子どもたちが参加しました。

介護福祉学科 就職ガイダンス | 6月13日

卒業生が語る介護現場と就職活動、交流を通して不安を解消

卒業生を招いた就職ガイダンスを開催しました。介護現場での経験や就職活動の体験談を交えた講演の後、学食で座談会を実施。学生は卒業生に直接質問し、親身なアドバイスを受けることで、不安を解消しました。将来の進路を具体的に思い描く貴重な機会となりました。



参加者

Interview



介護福祉学科 2年生
遠藤 杏奈さん

Q. 卒業生の講演を聞いて
どんな学びがありましたか？

就職活動の進め方が具体的にイメージでき、面接や小論文対策の重要性が分かりました。また、先輩方も周囲の支えを受けながら自分に合った就職先を丁寧に選んでいたことを知りました。

Q. ご自身の就職活動に
活かしたいことは何ですか？

福利厚生に加え、利用者や職員の様子、施設側の説明に注意を向けることで、将来働きたい職場を考える手がかりを得られました。

Q. 対談会ではどんなことが
聞けましたか？

先輩方の体験談に加え、施設見学の際に注目すべき点や質問の仕方など、就職先を選ぶための具体的な判断材料を把握することができました。

Q. 遠藤さんの卒業後の夢を
教えてください。

利用者一人ひとりの個性を尊重し、寄り添った支援ができる介護福祉士を目指しています。「小さな変化に気づく姿勢」を大切に、現場でも安心して過ごせる環境づくりに努めたいです。

■ スポーツフェスティバル | 6月21日~22日



学友会主催のスポーツフェスティバルを2日間開催しました。看護学部と介護福祉学科の学生が合同で参加し、バスケットボール、バレーボール、フットサルの3種目を実施。明るくにぎやかな雰囲気の中、会場には笑顔と声援があふれ、学生生活を彩るひとときとなりました。



介護福祉学科

■ 秋田令和高校との高大連携協定式 | 7月16日

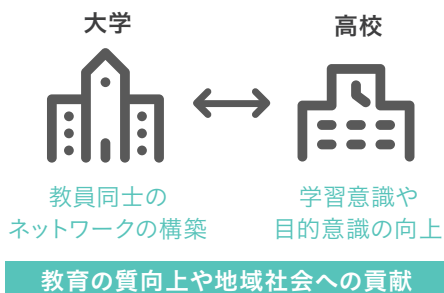


未来の介護福祉人材育成に向けて 秋田令和高校と協定

本学介護福祉学科は秋田令和高等学校と高大連携協定を締結しました。今後は高校生の大学授業への参加、高校への出張講義、両校教員の情報交換を通じ、介護福祉人材の育成と地域貢献を進めます。地域の介護・福祉に貢献したい生徒が、将来この分野で活躍する人材へ成長し、地元へ貢献する喜びを感じてもらえることを期待しています。

高大連携事業とは？

高大連携事業とは、高校と大学が協力して行う教育活動です。高校生が大学の学びに触れる機会を積極的に設けることで、高校から大学への円滑な移行を支援し、学習意欲や目的意識を高めることを目指します。教員同士のネットワークの構築にもつながり、教育の質向上や地域社会への貢献にも資する取り組みです。



■ 夏季防災キャンプ

6月28日~29日

防災体験を通じて
地域を支える力を育み、
地域防災の担い手としての
意識を高める

看護学部と介護福祉学科あわせて43名が参加し、2日間にわたり避難所宿泊体験や防災学習を行いました。この行事の目的は、防災に関する知識や経験を積み、学生の主体的な防災意欲を育むことです。将来的には、地域全体の防災力の強化や絆づくりにつなげていきます。



1. 避難生活用テント設営、2. 赤十字救急法(搬送法)、3. 赤十字救急法(一次救命措置)
4. 5. 6. 炊き出し体験(カレーライスやチャーハン、餃子などを調理。夜は焚火で焼きマッシュマロ)

■ ナイチンゲール記章授与式

7月30日~31日



看護の使命を学び、赤十字活動への
理解を広げた学生たち

看護学部の学生6名がナイチンゲール記章授与式に参加しました。受章者の講演を通じて、看護の使命や専門職としての意識を深める貴重な機会となりました。研修の一環として日本赤十字社本社も訪問。救護福祉部および国際部の職員から国内災害救護や国際活動について説明を受け、赤十字の活動への理解を深めました。

1. ナイチンゲール記章授与式会場(東京プリンスホテル)
2. 受章者 河野 順子さんの章記(書状)
3. 日本赤十字社本社での研修の様子
4. 日本赤十字社本社内資料館所蔵「救護医極」※

参加者

Interview



看護学部 4年生
田森 萌さん

Q.授与式(研修)に参加した理由を教えてください。

2年に一度の貴重な機会であり、日赤の看護大学だからこそ参加できる特別な機会だと感じたからです。交通費や宿泊費の支援もあり、参加を決める大きな理由となりました。

Q.赤十字社本社への訪問で印象に残っていることは何ですか？

資料館で「救護医極※」を見学し、当時の医療従事者が重い資器材を背負い戦地へ赴いた苦労を知りました。医療の進歩と歴史的背景を実感し、看護の原点を学ぶ機会となりました。

Q.実際に参加してどんな印象を持ちましたか？

受章者の皆様の功績が、社会を支える大きな力となっていることに感銘を受けました。過酷な状況に屈することなく、自らの使命を全うしようと奮闘される真摯な姿に、胸が熱くなりました。

Q.今回参加してよかったと思うことはどんなことですか？

現代の看護が確立されるまでの歴史を振り返ることができたことです。より良い看護を目指して尽力された先人の力強さを感じました。看護の学びを深める貴重な経験となりました。

※「救護医極」とは：戦争や災害時に救護用医療品を運ぶトランクです。現代の救急医療バッグの原型ともいえる存在で、限られた環境下でも医療を提供するための必須装備でした。外科手術用の器具、聴診器、体温計、包帯、医薬品など、応急処置や基本的な医療行為に必要な資材が詰め込まれています。

学部生対象大学院進学説明会

7月25日



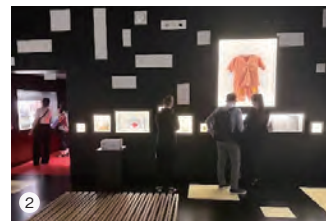
学部生対象の大学院進学説明会を行いました。大学院で学ぶ意義や学修の特徴、学位取得の重要性に関する説明があり、学生たちは真剣に耳を傾けていました。また、現役大学院生との座談会も実施。進学の経緯や研究生活を語りながら、後輩に具体的なアドバイスと熱い激励を送ってくれました。

赤十字海外スタディーツアー in イタリア・スイス

8月16~24日

国際赤十字の歴史と役割を学ぶ海外研修。
現地で理解を深める

授業科目「赤十字国際演習」の一環で、『赤十字海外スタディーツアー』を行いました。本学と日本赤十字看護大学、日本赤十字広島看護大学の合同研修です。赤十字の歴史や組織、国連の人道・開発機関としての役割について理解を深めることを目的に、赤十字発祥の地ソルフェリーノや創設者アンリー・デュナンが生誕地ジュネーブを訪問、国際連合ジュネーブ事務局も見学しました。今年度は全体で38名、本学からは7名の学生が参加しました。



1. ソルフェリーノの納骨堂：サルディニア、フランス、オーストリア各軍の戦死者約7,000人の遺骨が敵味方の区別なく納められています。
2. 国際赤十字・赤新月博物館：ICRC※本部に併設されており、紛争や災害時の活動、そして人道問題について、写真、映像、体験型展示などを通じて学ぶことができます。
3. 国際連合ジュネーブ事務局の新会議場。 4. 現地で学生同士が食事を楽しむ様子

参加者

Interview



看護学部 3年生
松岡 大生さん

Q. 赤十字海外スタディーツアーに参加した理由を教えてください

将来の看護の方向性を探るため、以前から関心のあった国際人道支援の現場を直接見たいと考えたからです。家族の勧めもあり、異文化の中で自分の価値観や視野を広げたいと思い、参加を決意しました。

Q. 現地で苦労することはありませんでしたか？

言語の壁には苦労しましたが、教員や仲間との確認を通じ疑問を解消するよう努めました。高い専門性が求められる場面で正しく理解を深めるには、個人の語学力だけでなく、周囲と協働して学ぶ姿勢が重要だと痛感しました。

Q. 特に印象に残っていることを教えてください

一番は、IFRC※とWHO※の見学です。職員の方から、公衆衛生の基本は現地の文化を尊重し同じ目線で寄り添うことだと教わりました。災害医療は「命を救う医療」であると同時に「生活を支える公衆衛生」でもあるということ、改めて実感しました。

Q. 研修全体を振り返ってどんな学びがありましたか？

他大学の学生の積極的な姿に刺激を受け、自分の考えを発信する大切さを学びました。今後は公衆衛生への関心を深め、今回の気づきを大学での学修に還元していきたいです。この海外研修は、将来の目標へ向かう原動力となる最高の経験となりました。

※ ICRC (赤十字国際委員会) : 戦時における中立かつ人道的な活動を行う国際機関
※ IFRC (国際赤十字赤新月社連盟) : 世界各地にある赤十字社や赤新月社をまとめている国際組織
※ WHO (世界保健機関) : 国際連合の専門機関で、世界の保健医療における司令塔。本部はジュネーブ



学びと文化体験でつながる 赤十字大学生が集う二日間

日本赤十字六看護大学学生交流会が本学を会場とし開催されました。全国の各赤十字大学※の学生たちが、「自然災害と地域支援」をテーマに集い交流を深めました。初日は自己紹介やゲームを通じて親睦を深めた後、災害被害の様子や支援の現場理解、支援方法についての講話を受講。夕方にはバーベキューを楽しみました。2日目は文化体験や施設見学、地元食材を使った食事を満喫するなど、終始にぎやかで華やかな交流会となりました。

※学校法人日本赤十字学園が設置する6つの看護大学(北海道、秋田県、東京都・埼玉県、愛知県、広島県、福岡県に所在)



「男鹿なまはげ館」
衣装・道具を使った無料体験コーナー

「男鹿真山伝承館」での記念撮影

オープンキャンパス

第1回 5月17日、第2回 7月27日
第3回 9月13日、第4回 3月20日



卒業生が語る看護の魅力と赤十字の役割

9月に開催されたオープンキャンパスでは、秋田赤十字病院に勤務する卒業生2名を招き「卒業生インタビュー」を実施。体験を交えた看護の魅力、やりがい、赤十字の役割について語っていただきました。また、養護教諭1種課程の4年生による「保健」の模擬授業が披露された他、模擬講義や模擬演習、個別相談、ドクターヘリ見学も実施され、会場は終始活気にあふれていました。



1. 卒業生インタビュー、2. ドクターヘリ見学、3. 養護教諭課程の学生たち、4. 先輩学生と話そうコーナー、5. 個別相談の様子

国際活動セミナー in AOMORI

9月6~7日

現場の声と体験型学習で 人道支援を考える

日本赤十字社青森県支部との共催で「赤十字国際活動セミナー」を開催しました。初日は、海外派遣を経験した職員の講話などを通じて、現場の実情や人道支援の意義を学びました。2日目は国際人道法教育ツール RAID CROSS を実施。シミュレーションやロールプレイを通じて人道法を学びました。本学看護学部1年生10名、弘前大学医学部保健学科の4年生2名の合計12名の学生が参加し、学びと交流に充実した二日間となりました。



1. 講師の話に聞き入る学生たち、2. RAID CROSSの様子。軍人や市民、支援要員などの役割を演じながら、体験を通して国際人道法のルールを学びます。
3. 無線訓練の様子、4. 休憩時間に赤十字グッズに見入っている学生たち

参加者

Interview



看護学部 1年生
佐藤 愛夏さん

Q. 国際活動セミナーに参加した理由を教えてください。

もともと災害救護に関心があり、本学に入学しました。日々の講義を通じて、国際活動や紛争地域での救護への興味が一層高まり、新たな気づきを得たいと考え参加を決めました。

Q. どのような学びを今後の学修に活かしていきたいですか？

国際活動セミナーを通して、看護師として求められる冷静さと最善のケアにつながる判断力の大切さを学びました。今回得た学びを、今後の実習に積極的に活かしていきたいです。

Q. 印象に残ったプログラムはなんですか？

戦争時における国際人道法のルールを体験的に学ぶ教育プログラム「RAID CROSS」に参加できたことです。個々の判断が結果を左右する状況だからこそ、周囲と協力し合って行動する重要性を学びました。

Q. 国際活動セミナーを終えての感想を教えてください。

他大学の学生や講師との交流を通して多くの刺激を受け、視野を広げることができました。貴重な機会に感謝し、国際社会の一員として自分にできることを考え行動していきたいです。

他にも様々な国際活動体験を行っています

看護学生向け 国際活動 体験ツアー2025 in 大阪赤十字病院

4月26~27日、大阪赤十字病院で開催された「国際活動体験ツアー」に本学の学生も参加し、災害・紛争地での救援を模擬体験しました。発災から撤収までを2日間でシミュレーションし、テント設営や衛星電話の使用などを実践。参加者は現場さながらの緊張感を体験し、国際活動への理解と意欲を深める機会となりました。

災害・紛争地での救援を模擬体験



1. 現地の情報収集（通信手段や宿舎、食料の確保の確認）、2. 活動拠点やクリニックレイアウトの検討、3. 無線を用いた実践演習、4. 救援活動に従事する前の準備物品の確認

災害救護訓練

9月24~25日



学びと実践で広がる支援の可能性

災害救護訓練とは、災害現場での活動を疑似体験しながら、救護の流れや支援者の役割を学ぶ取り組みです。看護学部1~3年生、介護福祉学科1、2年生が参加し、現場さながらの状況を体験。迅速で的確な対応の大切さを学びました。訓練は2日間にわたり行われ、1日目はオリエンテーションで担当ごとの目標や役割を確認。2日目には実動訓練が実施され、これまでの知識や練習の成果を発揮しながら、協力して災害時の対応を体験しました。

[傷病者]

事前に割り振られた傷病者の役になりきり、リアルな災害現場・避難所の様子を再現



[トリアージ]

傷病の緊急度や重症度に応じて、適切な処置や搬送を行うために、迅速に傷病者の治療優先順位を判断



[搬送]

現場の状況や環境、傷病者の状態や負傷部位などを把握して正しい搬送方法と搬送経路を選択



[応急処置]

トリアージの結果を踏まえ傷病者の状態を観察し、チーム内で連携をとりながら適切な処置を実施



参加者

Interview



看護学部 2年生
泉 莉央さん

Q. トリアージ役ではどんなことを意識しましたか？

最初に歩ける人たちを誘導して軽傷者として分けることで、それ以外の人の状況確認にスムーズに移れるよう工夫しました。治療の優先順位の見極めと、不安を和らげる声掛けの両方を意識して取り組みました。

Q. 搬送役ではどんな学びがありましたか？

患者を目的地まで運ぶだけでなく、安全性を考慮した体位の調整やチームの連携が欠かせないことを学びました。状況に応じて処置エリアのスタッフに協力を依頼する判断も必要だと感じました。

Q. 今回の訓練は、一年前と比べてどうでしたか？

昨年は傷病者役として参加し、負傷した痛みや「早く助けてほしい」という気持ちを想像しながら臨みました。先輩から「もう大丈夫ですからね」「怖かったですね」と声をかけてもらった場面が印象に残っています。その経験があったからこそ、できるだけ早く安心を提供するという意気込みで今回の訓練に参加することができました。

赤十字防災キャンプフェス

9月27~28日

体験型プログラムで学ぶ
“もしもの時”の備え

本学を会場に、「赤十字防災キャンプフェス」が開催されました。防災を“楽しく学ぶ”ことをテーマに、様々な体験型プログラム、アウトドア企画などが行われ、子どもから大人まで幅広い世代が参加しました。ビニール袋での炊飯、「人とペットの防災対策」、消防士・警察官による仕事体験ブース、アウトドア展示などを通じて、災害時に役立つ知識を学び、防災意識を高める機会となりました。



1. 本学「防災ボランティアステーション」スタッフ
2. ペットの迷子札をつくらうコーナー
3. 車両展示・消防体験
4. パネル展示ブース「全国災害活動報告」
5. 屋外会場（グラウンド）の様子
6. 赤十字救急法体験

同日開催

カリヨン祭

9月28日

地域とともに楽しむ、笑顔あふれる交流の場

本学の学園祭「カリヨン祭」は、学友会主体の企画が行われ、地域の方々も楽しめる交流の場です。模擬店では『なんちゃって夏祭り』をテーマに、くじ引きや水ヨーヨー釣りを実施。さらに、ダンスサークルによるステージ発表や、YouTuber・なるねえを招いたトークショーも開催され、会場は大いに盛り上がりました。



■ 大学院生による「両親学級」 | 10月25日

大学院生とつむぐ
いのちを迎える「心の準備」

本学大学院1年生が企画した「両親学級」が開催されました。成育看護学分野助産学領域の学生たちが、毎年オリジナルのプログラムを考え、主体的に企画・運営を行っています。

今年も、妊娠・出産・子育てに役立つヒントを、楽しく分かりやすく届けることをテーマに実施。「マタニティクイズ」「お産の進み方とサポートの実演」「妊婦体験」などが行われ、初めての方も安心して参加できるアットホームなイベントとなりました。



■ 看護学部病院合同就職説明会 | 12月10日



看護学生の未来を広げる、病院・施設とつながる進路相談の場

今年も、各地の病院・施設の看護部長や担当職員を招いたキャリアイベントを開催。学生は各ブースを訪れ、インターネットや資料だけでは得られない現場の声を聞くことで、進路選択に向けた理解を深めることができました。

10月
12月

学生と地域がつながる健康づくりのひととき

日赤でかだろ

老年看護学実習の一環として、地域の方々が気軽に立ち寄れるおしゃべりサロン「日赤でかだろ」を開催しました。学生が中心となって血圧測定や握力測定、健康体操を行うほか、本学教員によるミニ講話を実施。地域にひらかれたこの取り組みは、健康づくりと人と人とのつながりを大切にする温かなイベントとして定着しています。



第1回 6月4日 第2回 7月2日 第3回 9月4日 第4回 10月23日 第5回 11月13日



News Topics

地域貢献

公開講座を行いました

専門性を活かし地域に伝える
本学の取り組み

2025年度の公開講座は、7月から3月にかけて6つのテーマで開催されました。幅広い世代の方に向けて、感染症、形成外科、防災、がんといった多様な分野の講義を実施。本学や秋田赤十字病院ならではの専門性を活かした講義は、一般の方々にも分かりやすく伝えられ、健康づくりや防災意識の向上にもつながる学びの機会となりました。

学生



学生広報チームの 活動紹介

学生目線でキャンパスをPR!

本学の学生広報チームは、結成から2年目を迎え、活動をさらに活発化させています。学年を問わず集まった有志のメンバーが大学の様子や学生の日常、イベント情報などを発信し、大学の魅力を学内外に広めています。今後の取材活動にも、ぜひご協力をお願いします!



介護福祉学科

介護福祉学科1年生の作文が 秋田魁新報社の紙面に掲載されました

授業での学びから生まれた
学生の作文が新聞紙面へ

介護福祉学科で開講されている「日本語表現」科目において、介護福祉学科1年生が執筆した作文が秋田魁新報の紙面に掲載されました。授業では、文章表現力を磨くことを目的に、日常の気づきや学びを題材とした作文に取り組んでいます。今回の掲載は、学生の努力と成長が社会に広く紹介される貴重な機会となりました。

Interview

介護福祉学科 1年生
大淵 実愛さん



Q. 「日本語表現」の授業は
どんな学びがありましたか?

文章の構成方法や日本語の適切な用法について学習しました。先生からのアドバイスを活かしながら、正しい作文の書き方や表現の工夫の仕方を身につけることができました。

Q. 大淵さんの作文のテーマを教えてください。

テーマは「介護福祉士を目指した理由になりたい介護福祉士像」です。自分自身の原点を振り返りながら書くことで、介護福祉士としての理想像と今後の目標を再確認することができました。



News Topics

大学院

大学院生によるTAの実施 (ティーチング・アシスタント)

授業支援と教育経験を両立する
教育の質向上への一歩

本学では、授業支援の一環として大学院生によるティーチング・アシスタント(TA)制度を導入しました。大学院生は教育的配慮のもと、学部学生に対して助言や授業・演習等の教育補助業務を行います。教員と連携したサポートにより学部学生の学習環境が充実し、大学院生にとっても教育経験を積む機会が広がりました。今後も継続が期待されます。

介護福祉学科

秋田魁新報社 「ネクスト調査隊」取材を受けました

学生と記者が新聞の未来を語る

介護福祉学科2年生5名が、「ネクスト調査隊」の取材を受けました。この企画は、新聞の長所や短所、今後の展望について、学生と記者が率直に意見を交わすものです。開かれた建設的な対話が、新聞の未来をともに考えるきっかけとなりました。



教職員

日本赤十字社150周年 プロジェクトワークショップの開催

一緒に創ろう日赤の未来

日本赤十字社創立150周年プロジェクトの一環として、教職員を対象としたワークショップを実施しました。本ワークショップの目的は、赤十字の歴史や活動を振り返るとともに、「新しい時代の赤十字」のあり方について考えることです。当日は活発な意見交換が行われ、赤十字の一員としての意識を共有する有意義な場となりました。



看護学部

介護福祉学科

2025年度 学校見学・出前授業の実施記録

学校見学に来てくださった方々

【小学校】

上北手小学校

【中学校】

秋田西中学校、泉中学校、外旭川中学校、八峰中学校、大曲中学校、大曲西中学校、皆瀬中学校、西仙北中学校、御野場中学校、大館国際情報学院中学校、西明寺中学校、潟上市教育委員会

【高校】

秋田西高校、秋田令和高校、角館高校、横手城南高校、増田高校、西仙北高校

【その他】

東由利赤十字奉仕団、支部・奉仕団交流会(秋田・山形)

出張講義・出前講座

看護学部：【高校】能代高校、一関第一高校、角館高校
介護福祉学科：【高校】さくら国際高校、大曲農業高校、羽後高校
【中学校】山王中学校

教育機関応援型ふるさと納税による寄附募集をはじめました



「SCSKのふるさと納税」による寄附募集開始に伴う合同記者会見

「SCSKのふるさと納税」は、教育機関を応援することを目的とした新しいふるさと納税の仕組みです。従来の返礼品を目的とした寄附とは異なり、寄附者が教育機関や地域の取り組みに共感し、プロジェクトを選んで支援できるふるさと納税のプラットフォームとなっています。秋田市では、2025年10月14日よりこの制度を導入し、市内の高等教育機関への寄附を通じた支援活動を展開しています。地域の教育力を高め、若者の地元定着や人材育成を促進することを目的とした取り組みです。この仕組みを通じた本学への寄附窓口が開設され、より身近に本学の教育・研究活動をご支援いただけるようになりました。

募集中のプロジェクト



大学の未来をともに創る
大学運営へのご支援



世界の「いのち」と
暮らしを守る人材育成へのご支援



「生きるを支える人」を育む、
赤十字防災ボランティア
ステーションへのご支援



130年の歴史を受け継ぎ、
新時代の『人道』を実践する
赤十字の専門職育成へのご支援

〳〳 皆様からの温かいご支援をお待ちしております 〳〳

寄附は
こちらから



【お問い合わせ先】

日本赤十字東北看護大学・日本赤十字東北看護大学介護福祉短期大学部
経理課寄付金担当
電話：018-829-3014 FAX：018-829-3030

本学のソーシャルメディア公式アカウントのご紹介

📷 公式Instagram



大学の日常風景や授業の様子、学校行事、入試情報等をご紹介します。

📷 学生広報Instagram



学生の視点で大学の魅力を発信。学生たちのリアルなキャンパスライフがわかります。

📞 公式LINE



オープンキャンパスや入試に関する最新情報を、随時お知らせします。ぜひご登録ください。